

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基 本 計 画									
事 項	記 入 欄						備 考		
計 画 の 区 分	研究科の専攻の設置								
フ リ ガ ナ 設 置 者	コリツク ^イ イ ^ク ク ^シ ン ヤマ ^タ ウ ^イ ブ ^ク 国立大学法人 山形大学								
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称	ヤマ ^タ ウ ^イ ブ ^ク イ ^ン 山形大学大学院（Graduate school of Yamagata University）								
大 学 本 部 の 位 置	山形県山形市小白川町一丁目4番12号								
大 学 の 目 的	<p>山形大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）の精神にのっとり、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し知的道徳的及び応用的能力を展開させて、平和的民主的な国家社会の形成に寄与し、文化の向上及び産業の振興に貢献することを目的とする。</p> <p>本大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>								
新 設 学 部 等 の 目 的	<p>持続可能な地域社会の構築に貢献するため、地域風土に根差した新しい価値を生み出す建築・デザイン、安全・安心でレジエントな社会を形成するための対策や地域社会・産業の発展を支えるマネジメント手法に関する高度な専門知識や技術を備え、世界を見据えた幅広い視野を持ちつつ活動し、地域での研究成果を国際社会に向けて発信できるグローバル化に対応する人材の養成を目的とする。</p>								
新 設 学 部 等 の 概 要	新 設 学 部 等 の 名 称	修 業 年 限	入 学 定 員	編 入 学 員 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	開 設 時 期 及 び 開 設 年 次	所 在 地	基礎となる学部：工学部 14条特例を実施
	理工学研究科 [Graduate School of Science and Engineering] 建築・デザイン・マネジメント専攻 [Department of Architecture and Building Science, Design, and Management]	年	人	年次人	人	修士（工学） [Master of Engineering]	令和3年4月 第1年次	山形県米沢市城南四丁目3番16号	
	計	—	12	—	24				
同 一 設 置 者 内 に お け る 変 更 状 況 （ 定 員 の 移 行 ， 名 称 の 変 更 等 ）	<p>社会文化システム研究科 文化システム専攻（廃止） (△ 6) ※令和3年4月学生募集停止 社会システム専攻（廃止） (△ 6) ※令和3年4月学生募集停止</p> <p>地域教育文化研究科 臨床心理学専攻（廃止） (△ 6) ※令和3年4月学生募集停止 文化創造専攻（廃止） (△ 8) ※令和3年4月学生募集停止</p> <p>社会文化創造研究科 社会文化創造専攻 (24) (令和2年4月事前伺い)</p> <p>理工学研究科 物質化学工学専攻（廃止） (△38) ※令和3年4月学生募集停止 バイオ化学工学専攻（廃止） (△28) ※令和3年4月学生募集停止 応用生命システム工学専攻（廃止） (△23) ※令和3年4月学生募集停止 情報科学専攻（廃止） (△28) ※令和3年4月学生募集停止 電気電子工学専攻（廃止） (△34) ※令和3年4月学生募集停止 ものづくり技術経営学専攻（廃止） (△10) ※令和3年4月学生募集停止 化学・バイオ工学専攻 (67) (令和2年4月事前伺い) 情報・エレクトロニクス専攻 (62) (令和2年4月事前伺い)</p>								

		農学研究科 生物生産学専攻（廃止）（△12） ※令和3年4月学生募集停止 生物資源学専攻（廃止）（△14） ※令和3年4月学生募集停止 生物環境学専攻（廃止）（△10） ※令和3年4月学生募集停止 農学専攻（ 32）（令和2年4月事前伺い）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	理工学研究科	38科目	5科目	3科目	46科目	30単位			
	建築・デザイン学科デザイン・マネジメント専攻								
教員	学部等の名称	専任教員等						兼任教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
		人	人	人	人	人	人		
新設	社会文化創造研究科	52	40	7	0	99	0	53	令和3年4月事前伺い
	社会文化創造専攻（修士課程）	(54)	(40)	(7)	(0)	(101)	(0)	(51)	
既設	理工学研究科	15	14	0	13	42	0	51	令和3年4月事前伺い
	化学・バイオ工学専攻（博士前期課程）	(15)	(14)	(0)	(13)	(42)	(0)	(51)	
分	理工学研究科	12	16	0	7	35	0	53	令和3年4月事前伺い
	情報・エレクトロニクス専攻（博士前期課程）	(12)	(16)	(0)	(7)	(35)	(0)	(53)	
分	理工学研究科	6	2	0	3	11	0	50	令和3年4月事前伺い
	建築・デザイン・マネジメント専攻（博士前期課程）	(6)	(2)	(0)	(3)	(11)	(0)	(50)	
分	農学研究科	24	26	0	7	57	0	42	令和3年4月事前伺い
	農学専攻（修士課程）	(24)	(26)	(0)	(7)	(57)	(0)	(42)	
	計	109	98	7	30	244	0	—	
		(111)	(98)	(7)	(30)	(246)	(0)	(—)	
既設	医学系研究科	29	24	27	104	184	0	24	令和3年4月事前伺い
	医学専攻（博士課程）	(29)	(24)	(27)	(104)	(184)	(0)	(24)	
既設	医学系研究科	9	6	2	7	24	0	22	令和3年4月事前伺い
	看護学専攻（博士前期課程）	(9)	(6)	(2)	(7)	(24)	(0)	(22)	
既設	医学系研究科	7	3	1	6	17	0	1	令和3年4月事前伺い
	先進的医科学専攻（博士前期課程）	(7)	(3)	(1)	(6)	(17)	(0)	(1)	
既設	医学系研究科	9	6	2	7	24	0	22	令和3年4月事前伺い
	看護学専攻（博士後期課程）	(9)	(6)	(2)	(7)	(24)	(0)	(22)	
既設	医学系研究科	7	3	1	6	17	0	1	令和3年4月事前伺い
	先進的医科学専攻（博士後期課程）	(7)	(3)	(1)	(6)	(17)	(0)	(1)	
既設	理工学研究科	35	20	4	0	59	0	50	令和3年4月事前伺い
	理学専攻（博士前期課程）	(37)	(20)	(4)	(0)	(61)	(0)	(51)	
既設	理工学研究科	12	15	0	7	34	0	59	令和3年4月事前伺い
	機械システム工学専攻（博士前期課程）	(13)	(15)	(0)	(7)	(35)	(0)	(59)	
既設	理工学研究科	34	19	3	0	56	0	3	令和3年4月事前伺い
	地球共生圏科学専攻（博士後期課程）	(36)	(19)	(3)	(0)	(58)	(0)	(3)	
既設	理工学研究科	10	5	0	4	19	0	2	令和3年4月事前伺い
	物質化学工学専攻（博士後期課程）	(10)	(5)	(0)	(4)	(19)	(0)	(2)	
既設	理工学研究科	6	14	0	4	24	0	0	令和3年4月事前伺い
	バイオ工学専攻（博士後期課程）	(6)	(14)	(0)	(4)	(24)	(0)	(0)	
既設	理工学研究科	13	15	0	4	32	0	0	令和3年4月事前伺い
	電子情報工学専攻（博士後期課程）	(14)	(15)	(0)	(4)	(33)	(0)	(0)	
既設	理工学研究科	10	11	0	1	22	0	0	令和3年4月事前伺い
	機械システム工学専攻（博士後期課程）	(11)	(11)	(0)	(1)	(23)	(0)	(0)	
既設	理工学研究科	2	2	0	1	5	0	1	令和3年4月事前伺い
	ものづくり技術経営学専攻（博士後期課程）	(3)	(2)	(0)	(1)	(6)	(0)	(1)	
既設	有機材料システム研究科	19	9	0	7	35	0	69	令和3年4月事前伺い
	有機材料システム専攻（博士前期課程）	(19)	(9)	(0)	(7)	(35)	(0)	(69)	
既設	有機材料システム研究科	19	9	0	6	34	0	10	令和3年4月事前伺い
	有機材料システム専攻（博士後期課程）	(19)	(9)	(0)	(6)	(34)	(0)	(10)	
既設	教育実践研究科	8	9	0	0	17	0	0	令和3年4月事前伺い
	教職実践専攻（専門職学位課程）	(8)	(9)	(0)	(0)	(17)	(0)	(0)	
	計	229	170	40	164	603	0	—	
		(237)	(170)	(40)	(164)	(611)	(0)	(—)	
	合計	338	268	47	194	847	0	—	
		(348)	(268)	(47)	(194)	(857)	(0)	(—)	
教員以外の	職種	専任		兼任		計			
		人		人		人			
	事務職員	331		290		621			
		(331)		(290)		(621)			
技術職員	1,015		227		1,242				
		(1015)		(227)		(1242)			

職員 の 概 要	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)	0 (0)	6 (6)					
	そ の 他 の 職 員		11 (11)	13 (13)	24 (24)					
	計		1,363 (1363)	530 (530)	1,893 (1893)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	374,451 m ²	— m ²	— m ²	374,451 m ²					
	運 動 場 用 地	125,722 m ²	— m ²	— m ²	125,722 m ²					
	小 計	500,173 m ²	— m ²	— m ²	500,173 m ²					
	そ の 他	7,927,854 m ²	— m ²	— m ²	7,927,854 m ²					
合 計		8,428,027 m ²	— m ²	— m ²	8,428,027 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		206,034 m ² (206,034 m ²)	— m ² (— m ²)	— m ² (— m ²)	206,034 m ² (206,034 m ²)					
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	102 室	75 室	359 室	17 室 (補助職員0人)	1 室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		理工学研究科 建築・デザイン・マネジメント専攻			35 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なため 大学全体の数		
	-	1,092,962 [317,660] (1,092,962 [317,660])	24,861 [7,066] (24,861 [7,066])	7,940 [5,873] (7,940 [5,873])	6,933 (6,933)	144 (144)	717 (717)			
	計	1,092,962 [317,660] (1,092,962 [317,660])	24,861 [7,066] (24,861 [7,066])	7,940 [5,873] (7,940 [5,873])	6,933 (6,933)	144 (144)	717 (717)			
図 書 館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大 学 全 体		
		12,866 m ²		1,422 席		1,060,056 冊				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		7,067 m ²		陸 上 競 技 場 野 球 場 サ ッ カ ー 場 テ ニ ス コ ー ト 水 泳 プ ー ル (5 0 m) 武 道 場 弓 道 場 重 量 拳 練 習 場						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国 費 (運 営 費 交 付 金) に よ る
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	—	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		—								
大 学 の 名 称		国立大学法人山形大学								
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
人文社会科学部 人文社会科学科		4 年	290 人	3年次 20 人	1,200 人	学士(文学) 学士(学術) 学士(法学) 学士(政策科学) 学士(経済学)	1.05 倍 1.05	平成29年度 平成29年度	山形県山形市小白 川町一丁目4番12号	
人文学部 人間文化学科 法経政策学科		4 年 4 年	— —	— —	— —	学士(文学) 学士(法学) 学士(経済学) 学士(政策科学)	— —	昭和42年度 平成8年度 平成18年度	山形県山形市小白 川町一丁目4番12号 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止	

既設大学等の状況

地域教育文化学部 地域教育文化学科	4	175	—	700	学士（教育学） 学士（学術）	1.03 1.03	平成17年度 平成24年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
理学部 理学科	4	210	—	840	学士（理学）	1.04 1.04	昭和42年度 平成29年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
数理科学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	平成7年度		平成29年度より学生募集停止
物理学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	昭和42年度		平成29年度より学生募集停止
物質生命化学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	平成7年度		平成29年度より学生募集停止
生物学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	昭和42年度		平成29年度より学生募集停止
地球環境学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	平成7年度		平成29年度より学生募集停止
医学部 医学科	6	105	—	720	学士（医学）	1.00	昭和48年度	山形県山形市飯田西二丁目2番2号	
看護学科	4	60	3年次5	250	学士（看護学）	1.00	平成5年度		令和2年度入学定員減（△15）
工学部 高分子・有機材料工学科	4	140	—	560	学士（工学）	1.03 1.03	昭和24年度 平成29年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号	
化学・バイオ工学科	4	140	—	560	学士（工学）	1.03	平成29年度		
情報・エレクトロニクス学科	4	150	—	600	学士（工学）	1.04	平成29年度		
機械システム工学科	4	140	—	560	学士（工学）	1.04	平成2年度		
建築・デザイン学科	4	30	—	120	学士（工学）	1.03	平成29年度		
機能高分子工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成12年度		平成29年度より学生募集停止
物質化学工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成12年度		平成29年度より学生募集停止
バイオ化学工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成22年度		平成29年度より学生募集停止
応用生命システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成12年度		平成29年度より学生募集停止
情報科学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成12年度		平成29年度より学生募集停止
電気電子工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成12年度		平成29年度より学生募集停止
システム創成工学科	4	50	—	200	学士（工学）	1.05	平成22年度		
農学部 食料生命環境学科	4	165	—	660	学士（農学）	1.01 1.01	昭和24年度 平成22年度	山形県鶴岡市若葉町1番23号	
社会文化システム研究科 （修士課程） 文化システム専攻	2	6	—	12	修士（文学）	1.58	平成9年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
社会システム専攻	2	6	—	12	修士（政策科学）	0.74	平成9年度		
地域教育文化研究科 （修士課程） 臨床心理学専攻	2	6	—	12	修士（臨床心理学）	0.99	平成21年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
文化創造専攻	2	8	—	16	修士（学術）	0.99	平成21年度		
医学系研究科 （博士課程） 医学専攻	4	26	—	104	博士（医学）	0.92	昭和54年度	山形県山形市飯田西二丁目2番2号	
（博士前期課程） 看護学専攻	2	16	—	32	修士（看護学）	0.65	平成9年度		
先進的医科学専攻	2	6	—	21	修士（医科学）	0.26	平成29年度		令和2年度入学定員減（△9）
（博士後期課程） 看護学専攻	3	3	—	9	博士（看護学）	1.10	平成19年度		
先進的医科学専攻	3	4	—	22	博士（医科学）	0.51	平成29年度		令和2年度入学定員減（△5）
生命環境医科学専攻	3	—	—	—	博士（医科学）	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止

理工学研究科							昭和45年度		
(博士前期課程)									
理学専攻	2	53	—	106	修士(理学)	1.02	平成29年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
物質化学工学専攻	2	38	—	76	修士(工学)	1.13	平成16年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号	
バイオ化学工学専攻	2	28	—	56	修士(工学)	0.99	平成22年度	〃	
応用生命システム工学専攻	2	23	—	46	修士(工学)	1.08	平成16年度	〃	
情報科学専攻	2	28	—	56	修士(工学)	1.08	平成16年度	〃	
電気電子工学専攻	2	34	—	68	修士(工学)	1.04	平成16年度	〃	
機械システム工学専攻	2	50	—	100	修士(工学)	1.30	平成5年度	〃	
ものづくり技術経営学専攻	2	10	—	20	修士(工学)	1.00	平成17年度	〃	
(博士後期課程)									
地球共生圏科学専攻	3	5	—	15	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.80	平成11年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
物質化学工学専攻	3	3	—	9	博士(工学)	0.99	平成28年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号	
バイオ工学専攻	3	4	—	12	博士(工学) 博士(学術)	0.41	平成22年度	〃	
電子情報工学専攻	3	4	—	12	博士(工学) 博士(学術)	0.75	平成22年度	〃	
機械システム工学専攻	3	3	—	9	博士(工学) 博士(学術)	0.77	平成22年度	〃	
ものづくり技術経営学専攻	3	2	—	6	博士(工学) 博士(学術)	0.83	平成19年度	〃	
有機材料工学専攻	3	—	—	—	博士(工学) 博士(学術)	—	平成22年度	〃	平成28年度より学生募集停止
有機材料システム研究科							平成28年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号	
(博士前期課程)									
有機材料システム専攻	2	85	—	150	修士(工学)	1.19	平成28年度		令和2年度入学定員増(20)
(博士後期課程)									
有機材料システム専攻	3	10	—	20	博士(工学)	0.80	平成28年度		
農学研究科							昭和45年度	山形県鶴岡市若葉町1番23号	
(修士課程)									
生物生産学専攻	2	12	—	26	修士(農学)	0.50	平成7年度		令和2年度入学定員減(△2)
生物資源学専攻	2	14	—	30	修士(農学)	0.92	平成14年度		令和2年度入学定員減(△2)
生物環境学専攻	2	10	—	22	修士(農学)	0.99	平成7年度		令和2年度入学定員減(△2)
教育実践研究科							平成21年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
(専門職学位課程)									
教職実践専攻	2	20	—	40	教職修士(専門職)	1.05	平成21年度		
		<p>名称：医学部附属病院 目的：診療を通して、教育、研究及び学生の臨床実習の場を提供する。 所在地：山形県山形市飯田西二丁目2番2号 設置年月：昭和51年5月 規模：土地 71,275 m²、建物 56,181 m²</p> <p>名称：農学部附属やまがたフィールド科学センター（農場・演習林） 目的：環境保全型農林業の実践教育や自然と人間との関係を結ぶ体験学習の場を提供する。 所在地：（農場）山形県鶴岡市高坂字古町5番3号 （演習林）山形県鶴岡市上名川字早田川10 設置年月：昭和24年5月 規模：（農場）土地 240,655 m²、建物 4,067 m² （演習林）土地 7,530,908 m²、建物 885 m²</p>							

附属施設の概要	<p>名称：ものづくりセンター（実習工場）</p> <p>目的：工学部の全学科を対象とした実習工場としての場を提供する。</p> <p>所在地：山形県米沢市城南四丁目3番16号</p> <p>設置年月：平成22年4月</p> <p>規模：工学部敷地内，建物 2,434 m²</p>
	<p>名称：附属学校（幼稚園，小学校，中学校，特別支援学校）</p> <p>目的：教育実習指導，大学との共同研究に取り組み，地域教育の拠点となる。</p> <p>所在地：（附属幼稚園）山形県山形市松波二丁目7番1号 （附属小学校）山形県山形市松波二丁目7番2号 （附属中学校）山形県山形市松波二丁目7番3号 （附属特別支援学校）山形県山形市飯田西三丁目2番55号</p> <p>設置年月：昭和26年4月（幼稚園，小学校，中学校） 昭和49年4月（特別支援学校）</p> <p>規模：（附属幼稚園）土地 13,442 m²，建物 992 m² （附属小学校）土地 21,791 m²，建物 7,535 m² （附属中学校）土地 24,761 m²，建物 6,852 m² （附属特別支援学校）土地 19,831 m²，建物 3,982 m²</p>
	<p>名称：保健管理センター</p> <p>目的：学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を行い，もって健康の保持増進を図る。</p> <p>所在地：山形県山形市小白川町一丁目4番12号</p> <p>設置年月：昭和58年4月</p> <p>規模：小白川キャンパス内，500 m²</p>
	<p>名称：教育開発連携支援センター</p> <p>目的：教育方法等の改善及び教育の社会連携に関する業務を行う。</p> <p>所在地：山形県山形市小白川町一丁目4番12号</p> <p>設置年月：平成23年4月</p> <p>規模：人的構成組織</p>
	<p>名称：国際事業化研究センター</p> <p>目的：国際的な視野からの実用化の研究促進，研究成果の事業化・産業化及び研究成果を実用化できる人材を育成する。</p> <p>所在地：山形県米沢市城南四丁目3番16号</p> <p>設置年月：平成21年4月</p> <p>規模：工学部敷地内，建物 2,661 m²</p>
	<p>名称：工学部学術情報基盤センター</p> <p>目的：工学部における学術情報基盤の整備充実を図り，情報メディアの利活用を支援し，教育及び研究の進展に寄与する。</p> <p>所在地：山形県米沢市城南四丁目3番16号</p> <p>設置年月：平成21年10月</p> <p>規模：工学部敷地内，建物 870 m²</p>
	<p>名称：工学部国際交流センター</p> <p>目的：外国人留学生が円滑な学業・研究生生活を送るための教育や，日本人学生がグローバル化に対応できる能力を育成するための指導及びコミュニケーション能力の向上のための教育を行う。</p> <p>所在地：山形県米沢市城南四丁目3番16号</p> <p>設置年月：平成21年10月</p> <p>規模：工学部敷地内，建物 1,408 m²</p>

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 6 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人山形大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
山形大学				山形大学				
人文社会科学部		3年次		人文社会科学部		3年次		
人文社会科学科	290	20	1,200	人文社会科学科	290	20	1,200	
地域教育文化学部				地域教育文化学部				
地域教育文化学科	175	—	700	地域教育文化学科	175	—	700	
理学部				理学部				
理学科	210	—	840	理学科	210	—	840	
医学部				医学部				
医学科(6年制)	105	—	630	医学科(6年制)	105	—	630	
看護学科	60	3年次 5	250	看護学科	60	3年次 5	250	
工学部				工学部				
高分子・有機材料工学科	140	—	560	高分子・有機材料工学科	140	—	560	
化学・バイオ工学科	140	—	560	化学・バイオ工学科	140	—	560	
情報・エレクトロニクス学科	150	—	600	情報・エレクトロニクス学科	150	—	600	
機械システム工学科	140	—	560	機械システム工学科	140	—	560	
建築・デザイン学科	30	—	120	建築・デザイン学科	30	—	120	
システム創成工学科	50	—	200	システム創成工学科	50	—	200	
農学部				農学部				
食料生命環境学科	165	—	660	食料生命環境学科	165	—	660	
計	1,655	25	6,880	計	1,655	25	6,880	
山形大学大学院				山形大学大学院				
社会文化システム研究科								
文化システム専攻(M)	6	—	12		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
社会システム専攻(M)	6	—	12		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
地域教育文化研究科								
臨床心理学専攻(M)	6	—	12		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
文化創造専攻(M)	8	—	16		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
医学系研究科				<u>社会文化創造研究科</u>				研究科の設置(事前伺い)
医学専攻(4年制D)	26	—	104	<u>社会文化創造専攻(M)</u>	24	—	48	研究科の専攻の設置(事前伺い)
看護学専攻(M)	16	—	32	医学系研究科				
先進的医科学専攻(M)	6	—	12	医学専攻(4年制D)	26	—	104	
看護学専攻(D)	3	—	9	看護学専攻(M)	16	—	32	
先進的医科学専攻(D)	4	—	12	先進的医科学専攻(M)	6	—	12	
理工学研究科				看護学専攻(D)	3	—	9	
理学専攻(M)	53	—	106	先進的医科学専攻(D)	4	—	12	
機械システム工学専攻(M)	50	—	100	理工学研究科				
物質化学工学専攻(M)	38	—	76	理学専攻(M)	53	—	106	
バイオ化学工学専攻(M)	28	—	56	機械システム工学専攻(M)	50	—	100	
応用生命システム工学専攻(M)	23	—	46		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
情報科学専攻(M)	28	—	56		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
電気電子工学専攻(M)	34	—	68		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
ものづくり技術経営学専攻(M)	10	—	20		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
地球共生圏科学専攻(D)	5	—	15		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
物質化学工学専攻(D)	3	—	9		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
バイオ工学専攻(D)	4	—	12		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
電子情報工学専攻(D)	4	—	12		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
機械システム工学専攻(D)	3	—	9		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
ものづくり技術経営学専攻(D)	2	—	6		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
有機材料システム研究科					0	—	0	令和3年4月学生募集停止
有機材料システム専攻(M)	85	—	170		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
有機材料システム専攻(D)	10	—	30		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
農学研究科					0	—	0	令和3年4月学生募集停止
生物生産学専攻(M)	12	—	24		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
生物資源学専攻(M)	14	—	28		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
生物環境学専攻(M)	10	—	20		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
教育実践研究科					0	—	0	令和3年4月学生募集停止
教職実践専攻(P)	20	—	40		32	—	64	研究科の専攻の設置(事前伺い)
計	517	—	1,124	計	491	—	1,072	

教育課程等の概要															
(理工学研究科 建築・デザイン・マネジメント専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育	地域創生・次世代形成・多文化共生論	1前	2			○									兼3 共同
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3	
基礎専門科目	異分野連携論	1後		1		○									兼2 共同
	異分野実践研修	1通		1				○							兼2 共同
	キャリア・マネジメント	1前		1		○									兼1 オムニバス
	研究者としての基礎スキル	1前		1		○									兼9 オムニバス
	データサイエンス	1後		1		○									兼4 オムニバス
	Academic Skills : Scientific Presentations + Writing	1後		1		○									兼2 共同
	小計 (6科目)	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼16	
各研究科開講科目	社会文化創造論	1前		1		○									兼3 オムニバス
	知財と倫理	1後		1		○									兼1 集中
	技術経営学概論	1前		1		○			1	1		1			兼1 集中
	食の未来を考える	1後		1		○									兼8 オムニバス
	Global Materials System Innovation	1前		1		○									兼1
	先端医科学特論	1後		2		○									兼15 オムニバス
小計 (6科目)	—	0	7	0	—			1	1	0	1	0	兼29		
高度専門科目 I	専攻共通科目														
	数学特論Ⅰ	1・2後		2		○									兼1
	数学特論Ⅱ	1・2前		2		○									兼1
	数学特論Ⅲ	1・2前		2		○									兼1
	数理工学特論Ⅰ	1・2後		2		○									兼1
	数理工学特論Ⅱ	1・2前		2		○									兼1
	応用物理学特論Ⅰ	1・2後		2		○									兼1
	応用物理学特論Ⅱ	1・2前		2		○									兼1
	応用物理学特論Ⅲ	1・2後		2		○									兼1
	応用化学特論Ⅰ	1・2前		2		○									兼1
小計 (9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼6		
自専攻科目	建築構造デザイン特論	1前		2		○			1						隔年
	建築デザイン特論	1前		2		○			1			1			隔年
	都市デザイン特論	1前		2		○						1			隔年
	建築環境デザイン特論	1前		2		○			1						隔年
	建築ヘリテイジデザイン特論	1後		2		○			1						隔年
	マーケティング・地域戦略論	1後		2		○			1						隔年
	地域資源開発特論Ⅰ	1前		2		○				1					隔年
	小計 (7科目)	—	0	14	0	—			5	1	0	2	0		
高度専門科目 II	地域デザイン特論	2前		2		○			1						隔年
	コミュニティーデザイン特論	1後		2		○			1						隔年
	ダイナミックシステムデザイン特論	1後		2		○						1			隔年
	建築生産デザイン特論	1後		2		○						1			隔年
	サステナブルデザイン特論	1後		2		○			1						隔年
	セイフティデザイン特論	2前		2		○			1						隔年
	マテリアルデザイン特論	2前		2		○			1						隔年
	システムデザイン特論	2前		2		○			1						隔年
	地域マネジメント特論	2前		2		○			1						隔年
	地域資源開発特論Ⅱ	1後		2		○				1					隔年
	建築・デザイン・マネジメントⅠ	1後		2				○	6	2		3			隔年
	建築・デザイン・マネジメントⅡ	2前		2				○	6	2		3			隔年
小計 (12科目)	—	0	24	0	—			6	2		3	0			

高度 専門 科目 Ⅲ	建築・デザイン・マネジメント特別演習A	1～2通	4				○		6	2		3		
	建築・デザイン・マネジメント特別実験A	1～2通	6					○	6	2		3		
	学外実習（インターンシップ）	1・2通		2				○	6	2		3		
	理工学教育研修	1・2通		2			○		6	2		3		
	研究開発実践演習（長期派遣型）	1・2通		4			○		6	2		3		
小計（5科目）			—	10	8	0	—		6	2	0	3	0	
合計（46科目）			—	12	71	0	—		6	2	0	3	0	兼50
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
<p>修了要件は、大学院に2年以上在学し、建築・デザイン・マネジメント専攻で定められた要件を満たしながら30単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することである。なお、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者は、1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>上記習得単位には、基盤教育科目である「地域創生・次世代形成・多文化共生論」（2単位 必修）および選択必修である基礎専門科目のうち共通開講科目と各研究科開講科目からそれぞれ1単位以上が含まれていることが必要である。また、建築・デザイン・マネジメント専攻の開講する高度専門科目を18単位以上履修することが必要であり、なかでも、必修科目である「建築・デザイン・マネジメント特別演習A」（4単位）および「建築・デザイン・マネジメント特別実験A」（6単位）を履修していることが求められる。さらに、建築・デザイン・マネジメント専攻の開講する高度専門科目Ⅰおよび高度専門科目Ⅱから、それぞれ2単位以上を履修しなければならない。選択講義科目には、自専攻講義科目、他専攻講義科目（有機材料システム研究科講義科目を含む）、各専攻共通科目のほか他の大学院で履修した科目を充てることができる。</p>								1学年の学期区分			2期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
〔【既設】理工学研究科 ものづくり技術経営学専攻〕															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	商品企画・開発論	1前		2		○				1					兼2
	技術経営学概論A	1前	2			○			1	1		1		兼1	
	技術経営学概論B	1後	2			○			1						
	原価計算論	1前		2		○			1						
	マーケティング・戦略論Ⅰ	1前		1		○			1					兼1	
	マーケティング・戦略論Ⅱ	1前		1		○			1					兼1	
	組織・人的資源管理特論	1前		1		○			1						
	地域活性化特論	1前		2		○						1			
	食品ビジネス特論	1前		2		○				1					
	地域資源開発特論	1後		2		○				1					
	地域資源ビジネス特論	1後		2		○						1			
	知的財産マネジメント	1後		2		○			1					兼1	
	グローバル戦略マネジメント	1後		2		○				1				兼3	
	国際取引マネジメント論	1後		2		○			1					兼2	
	技術マネジメント特論A（国際経営系）	1後		2		○			1						
	技術マネジメント特論B（設計系）	1前		2		○				1					
	技術マネジメント特論C（品質系）	1前		2		○				1					
	技術マネジメント特論D（情報系）	1後		2		○			1						
	技術マネジメント特論Ⅰ（金融分析）	1・2通		2		○			1						
	ビジネス日本語Ⅰ	1後		2		○				1					
	ビジネス日本語Ⅱ	1前		2		○				1					
	ビジネス日本語Ⅲ	1後		2		○				1					
	ビジネス日本語Ⅳ	1前		2		○				1					
日本ビジネス	1後		2		○				1						
学外実習（インターンシップ）	1後		2				○	4	2		1				
キャリア開発	1・2通		2			○			1		1		兼1		
研究論文特別演習	1～2通		6				○	4	2		1				
研究開発実践演習（長期派遣型）	1・2通		4				○	4	2		1				
小計（28科目）		—	18	41	0	—	—	4	2	0	1	0	兼11		
合計（28科目）		—	18	41	0	—	—	4	2	0	1	0	兼11		
学位又は称号	修士（工学）	学位又は学科の分野			工学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
[価値創成コース] 自専攻講義科目14単位（必修科目4単位を含む）、選択講義科目10単位以上、研究論文特別演習6単位を修得する。 [とうほくMITRAIコース] 自専攻講義科目12単位（必修科目12単位を含む）、選択講義科目22単位以上、研究論文特別演習6単位を修得する。 両コースとも、加えて、修士論文を提出して論文審査、最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

（注）

- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(工学部 建築・デザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	微積分解法	2前		2		○									兼1
	機械工学基礎Ⅰ	2前		2		○									兼1
	機械工学基礎Ⅱ	2後		2		○									兼1
	数学C	2後		2		○									兼1
	建築学概論	1前	2			○			1						
	デザイン概論	1前	2			○			5				1		
	日本建築史	1後	2			○			1						
	木質構造概論	1後		2		○			1				1		
	図学	2前		2		○			1						
	基礎設計製図	2前	2					○	2				1		
	新材料加工学	2前		2		○			1						
	西洋建築史	2前		2		○			1						
	環境工学	2前	2			○									兼1
	住居計画学	2前	2			○			1						
	建築構造力学	2前	2			○			1				1		
	建築構造力学演習	2前		2		○			1				2		
	建築一般構造	2後		2		○			1				1		
	建築法規	2後		2		○			1						
	測量学	2後		2		○			1						
	測量学実習	2後		2				○	1						
	運動と力学及び演習	2後		2		○									兼1
	建築設計製図Ⅰ	2後	2					○	2				1		兼1
	建築CAD演習	2後		2				○							兼1
	建築設備	2後		2		○			1						
	建築材料学	2後		2		○			1				1		
	インテリアデザイン論	2後		2		○			1						
	ユニバーサルデザイン論	2後		2		○			1						
	環境自然科学演習	2後		2				○	1						
	建築設計製図Ⅱ	3前	2					○	3				1		
	住環境論	3前		2		○			1						
	施設計画	3前		2		○			1						
	耐震構造	3前		2		○			1						
	建築材料学実験	3前		2				○	1				1		
木質構造デザイン	3前		2		○			1				1			
建築環境エネルギーデザイン	3前		2		○			1							
建築環境リサイクル	3前		2		○			1							
建築史演習	3前		2				○	1				1			
地域景観デザイン論	3前		2		○			1				1			
新材料加工学演習	3前		2				○	1							
住まいと庭園	3前		2		○			1							
都市・地域計画演習	3後		2				○	1				1			
建築設計製図Ⅲ	3後		2				○	3				1			
都市・地域計画	3後	2			○			1							
地盤工学	3後		2		○			1							
建築施工	3後		2		○			1							
景観設計	3後		2		○			1							

木質構造デザイン演習	3後		2			○		1			1		
建築構造デザイン	3後		2		○			1					
地震工学	3後		2		○			1					
建築環境エネルギーデザイン実験	3後		2				○	1					
建築環境実験	3後		2				○	1					
建築設計製図Ⅳ	4前		2			○		3			1		
振動論	4前		2		○			1					
工業英語	4前		2		○			1					
デザイン基礎	2前		2		○			1					
地域デザイン論	2前		2		○			4			1		
地域デザイン演習	2後		2			○		4			1		
デザイン演習	3前		2			○		1					
インダストリアルデザイン	3後		2		○			1					
オープンデスク	3前		2				○	4			2		
ゼミナール	4前・後		2		○			4			3		
卒業研究	4通	10				○		4			3		
学外実習（インターンシップ）	3前・後		2				○	4			3		
建築・デザイン特別講義	4前・後		3		○			4			3		
単位互換科目	3前・後		2		○			4			3		
確率統計学	4前		2		○							兼1	
安全工学	4前		2		○							兼1	
数値解析	4前		2		○							兼1	
知的財産権概論	4前		2		○			1					
特別講義	2後		2		○			4			3		
職業指導Ⅰ	3前		2		○							兼1	どちらか一方
職業指導Ⅱ	3前		2		○			1				兼1	選択必修

合計（108科目）	—	30	123	0	—	5	0	0	3	0	兼7
-----------	---	----	-----	---	---	---	---	---	---	---	----

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
--------	--------	-----------	------

卒業要件及び履修方法	授業期間等
------------	-------

【コース共通】 ・修業年限 4年 ・卒業に要する最低単位数 130単位 （基盤共通教育科目36単位＋専門教育科目94単位） ・基盤共通教育科目内訳 導入科目 2単位 基幹科目 4単位 教養科目と共通科目 30単位 ・専門教育科目内訳 必修科目 30単位 選択科目 64単位	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科 建築・デザイン・マネジメント専攻）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目	地域創生・次世代形成・多文化共生論	本講義は、「地域創生」、「次世代形成」、「多文化共生」の3つを主たるテーマとし、講義を通じ、現代に取り巻く地域の活性化やグローバル化を背景とした諸課題に対し、研究者・実践家が自然科学・現代技術・社会科学の知を駆使してどのような方法論に基づいて向き合っているのかを体感させる。これにより、学生自身に自らの将来像を描かせ、その将来像からバックキャストすることで、大学において学生個々がどのように学修してゆくかを考えさせる。「次世代形成」では「研究倫理」についても取り上げる。	共同	
基礎専門科目	共通開講科目	異分野連携論	本講義は、科学・技術・社会における学際融合（マッチング・課題探索）に関する最先端の内容を紹介することで、分野の枠を超えた理解・協同のための取り組み・仕組み作りにおいて必要な要素を把握し理解させることを目的とする。これに加え、イノベーションや人災事故など陽と陰の両面の作用をもつ科学・技術による社会への様々な影響、および、反対に社会条件による科学・技術の制約の作用の両面を研究する「科学技術社会論」を取り上げ、広義の科学を俯瞰する能力を育むものである。	共同
		異分野実践研修	本実習は、自らの専門とは異なる分野で課題に取り組む際の専門の枠を超えた理解・協働を促進する実践力あり方を習得するため、専門が異なる学内の異分野研究室での研修（例：研究室ローテーション）、異分野の産業現場における実習（学外企業へのインターンシップ）、異分野の研究施設における実習又は国外におけるフィールドワークへの参加等を通じて、異分野連携の実践を体感することを目的とする。	共同
		キャリア・マネジメント	学界に寄与する優れた研究の推進あるいは先端的な技術開発の貢献等によって、研究者・高度専門職従事者として十分自立して活動するために必要な、大学院修了後のキャリアパスについて学ぶ。大学院生が自身のキャリアについて考察し、それを実現するためにどのような能力を獲得すべきかについて主体的に考えるキャリア・マネジメント力を身につけることを目的とする。	
		研究者としての基礎スキル	分野の枠を超えた多様なプレゼンテーション・研究マネジメントスキルに関する講義を通じて、両スキルに対する理解を深めるとともに、自身のスキルアップへ向けた課題発見および解決へ向けた取り組みを考えることを目的とする。また、研究倫理に関する基本的な知識と考え方を正しく理解することを目指す。 （オムニバス形式／全8回） （41 富松 裕, 27 小倉泰憲 /1回） ガイダンスおよび研究倫理 （45 奥野 貴士 /1回） 理学分野の地域型研究マネジメント （19 浦川 修司 /1回） 農学分野の地域型研究マネジメント （40 村上 正泰 /1回） 医学分野の地域型研究マネジメント （53 本島 優子, 54 関口 雄一, 20 富田かおる /2回） 一般的なプレゼンスキル （59 カロリン・イブトナー /2回） 国際的なプレゼンスキル	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	データサイエンス	データサイエンスの最新事情とそれを構成する技術群を理解するとともに、データ分析の基本的な手法を学び、研究や業務の中でデータサイエンスを適用した課題解決が行える知識・基礎的素養を身につける。 (オムニバス形式/全7回) (52 安田宗樹/2回) データ表現とデータ解析手法 (30 脇 克志/2回) データサイエンス分野に使われる代表的な数理・技術 (38 中西正樹/1回) データサイエンスを支える計算技術 (36 古澤宏幸/1回) 生命・医療・ヘルスケア分野におけるデータサイエンスおよび機械学習・深層学習 (52 安田宗樹/1回) 総括	オムニバス方式
	Academic Skills : Scientific Presentations + Writing	(英文) In “Academic Skills: Scientific Presentations + Writing,” we will learn how to use English effectively for scientific purposes. This course will teach the usage of English in academic presentations and academic writing. The course will focus on English phrases as well as smart presentation techniques. Examples of such are meaningful comparisons, figures, and labels. (和文) 学術的な文章で英語をどのように効果的に使用すればよいかを学ぶ。このコースでは、アカデミックライティング、プレゼンテーションにおける英語の使用方法について講義する。また、スマートなプレゼンテーションのために役に立つ英語フレーズ、効果的な図表の入れ方についても学ぶ。	共同
各研究科開講科目	社会文化創造論	「文化」を「社会」との関連の中で俯瞰的に捉える視点を学び、現代社会が直面する課題についての分析スキルを身につけ、課題が生じる原因を的確に理解して社会の変革に対応する力を修得する。 (オムニバス形式/全8回) (28 三上英司/4回) オリエンテーションと「内的多文化と外的多文化」「社会と文化の形成過程」「共生とグローバリズム」 (29 加藤健司/2回) オリエンテーションと「文化の融合と転移」「文化の伝播と変容」 (25 大喜直彦/2回) オリエンテーションと「地域間ネットワークの形成と振興」「地域間ネットワークの発展と経済」	オムニバス方式
	知財と倫理	研究活動を進めていく上で必須となる知財及び倫理についての基本知識や考え方を習得することを目的とする。授業の方法は、知財及び倫理に関する講義とグループディスカッション、演習を組み合わせで構成する。	集中
	技術経営学概論	技術経営とは何かに関して、基礎的な知識を習得する。技術経営と価値創成の意義、イノベーションエコシステムとバリューチェーン、コア技術戦略、アーキテクチャーとプラットフォーム、組織能力とプロセスマネジメント等について学ぶ。技術経営学全体を概観するとともに、マネジメント領域の専門科目の基盤となる基本的知識の理解を深める。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	食の未来を考える	<p>生産、加工、醸造、流通、安全といった食の川上から川下まで、食の未来について考え、専門分野の枠にとらわれず「食」に関する基礎知識を身につけることを目的とする。8人の教員がそれぞれ1回担当するオムニバス方式で行う。主にパワーポイントを用いて講義を行う。</p> <p>(オムニバス形式/全8回)</p> <p>(46 藤科 智海/1回) 農業から食品製造業、食品流通業、外食産業等を通して私たちの食生活が成り立っている現状を説明する。</p> <p>(60 茄子川 恒/1回) 作物の生産を中心に、世界の食料生産と飢餓との関連について考察します。</p> <p>(47 松山裕城/1回) 畜産業の現在（畜産物の生産技術、生産・消費動向、課題など）を理解し、未来について考える。</p> <p>(48 星野 友紀/1回) DNA情報を用いた作物ゲノム育種について、我々の最新の研究を例にあげて紹介する。</p> <p>(26 村山 秀樹/1回) 食品とりわけ農産物の収穫後の保存方法や流通方法について、最近の知見をまじえて概説する。</p> <p>(22 小関 卓也/1回) 発酵食品の代表例として、醸造に関わる微生物である麹菌（カビ）の特性および利用について理解する。</p> <p>(39 渡部 徹/1回) 科学的な根拠をもとに食品の安全がどのように評価・管理されているのか説明するとともに、関連する最新研究を紹介する。</p> <p>(61 陳 奥飛/1回) 食に関する種々な研究テーマの最下流として、食に関わる消費者行動に着目し、その研究事例を紹介する。</p>	オムニバス方式
	Global Materials System Innovation	<p>材料の基礎から応用に至る知識の修得のみならず、それらを核として他分野との連携により拡張される、より広範な材料システム分野を発展させ、社会実装につなげるべく、高度な材料に関わる専門知識と周辺分野に関わる幅広い知識を兼ね備え、新たな付加価値を創成できるグローバル人材に求められる能力・知識力・技術力・専門力の素養を身につけることを目的とします。</p>	
	先端医学特論	<p>21世紀型医療を取り巻く実際と将来的展望について理解し、医療における倫理とその問題について理解を深めることを目的とする。医科学における最先端の話題を取りあげることにより、現代医療と医療の将来像について多角的に外観するとともに、生命倫理の重要性を認識する。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(23 山崎 健太郎/1回) 医療と法律</p> <p>(43 鹿戸 将史/1回) 神経放射線診断学の基本</p> <p>(32 園田 順彦/1回) 脳神経外科学</p> <p>(44 山口 浩明/1回) 医薬品と倫理</p> <p>(40 村上 正泰/1回) 社会経済環境の変化と医療政策の過去・現在・未来</p> <p>(55 小山 信吾/1回) 高次脳機能障害</p> <p>(51 田中 敦/1回) ミトコンドリアと疾患生物学</p> <p>(57 邵 力/1回) ゲノミクスと社会医学</p> <p>(33 岩井 岳夫/1回) 重粒子線治療</p> <p>(49 高窪 祐弥/1回) 超高齢社会とリハビリテーション</p> <p>(58 佐藤 秀則/1回) 病気と遺伝子</p> <p>(24 藤井 順逸/1回) 酸化ストレスとレドックス生物学</p> <p>(50 越智 陽城/1回) 遺伝子発現制御の破綻と疾患</p> <p>(34 中島 修/1回) マウスを利用した遺伝子機能の解析</p> <p>(21 石澤 賢一/1回) 血液病学の進歩と課題</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
高度専門科目 I 専攻共通科目	数学特論 I	物理学の現実的なモデルは大抵複雑すぎて、近似なしに解くことは望めない。天体力学の3体問題（太陽、地球、月など）ですら一般には解けない。しかしながら厳密に解けるモデルも知られており、それらは一般に可積分系と呼ばれる。その代表例である2次元Isingモデルは、近似ではない厳密な計算により相転移の存在が示された最初のモデルである。この授業では2次元Isingモデルの自由エネルギーの厳密解を導く。この目的のための数学的道具立てとして、転送行列、離散フーリエ変換、フェルミオンについて学び、広い意味での場の理論に触れる。可積分系は物理現象を記述するという物理的興味にとどまらず、厳密に解けるということの背後にある深い数学的構造が興味深い。この授業で体得する数学的思考法を、日々の実験等に役立てていただきたい。	
	数学特論 II	数理論理学における可積分なモデル、つまり解析的な厳密解が導かれるモデルについて考察する。1980年代からの共形場理論の発展に伴い、可積分系における代数的解析的な手法が発展してきた。この授業では、代数的解析的な手法で、量子スピン系XXZモデルを考察し、相関関数の積分表示を導出する。量子スピン系XXZモデルの相関関数を、量子群の自由場表示を用いて計算できることを合格の基準にする。線形代数と微分積分学の基礎は理解しておく必要がある。厳密解を導くことは容易ではないが、近似解にはない素晴らしさがあることを理解していただきたい。	
	数学特論 III	線形代数統論として、特に整数を要素にもつ行列の変形や計算方法を学ぶ。応用として格子上海球充填問題と関連するポロノイ理論を解説する。最適化問題の1つである格子上海球充填問題への線形代数によるアプローチを通して、基礎数学の応用分野への摘要方法を体感する。対称群の計算ができる、スミス標準型の計算ができる、格子の生成行列およびグラム行列が計算できる、凸錐の計算方法がわかるの4点を到達目標とする。	
	数理工学特論 I	担当教員の所属する「人狼知能プロジェクト」の成果を通じて最新のAI技術について理解を深め、人狼ゲームをプレイするAIエージェント作成の技術を身につけることを目的とする。到達目標は以下のとおり。(1) ゲームAIの歴史と今後の展望について説明できる。(2) 代表的な機械学習手法について説明できる。(3) 自然言語処理について説明できる。(4) 人狼知能プラットフォームを使って人狼知能エージェントを作成できる。(5) 機械学習を組み込んだ人狼知能エージェントを作成できる。(6) 自然言語処理を組み込んだ人狼知能エージェントを作成できる。	
	数理工学特論 II	代表的な多変量解析法について学習し、データ解析ツールを「ブラックボックス」としてではなく、中身を理解したうえで使える力を身につける。到達目標は以下の5点とする。相関分析ができるようになる。重回帰分析ができるようになる。主成分分析ができるようになる。判別分析ができるようになる。クラスター分析ができるようになる。講義では、基礎知識、相関分析、回帰分析、主成分分析、判別分析、クラスター分析をテーマとして取り上げる。	
	応用物理学特論 I	物性物理学への理解を深めるため、外部から加えられた電場・磁場に対する物質の応答について学ぶことを目的とする。講義では、電気双極子、磁気双極子をもつ固体の電氣的・磁氣的性質、外場に対する応答、双極子の協力現象と相転移、強誘電体・強磁性体に代表される双極子の長距離秩序状態について述べる。特に電子のスピンについては、その起源、合成、秩序等詳しく紹介する。物性物理学、誘電体、磁性体、スピン、双極子、相転移、長距離秩序をキーワードに講義を行う。	
	応用物理学特論 II	微視的な世界では連続的な値をとらずに離散的な値しかとることができない。その微視的世界の現象は、「量子力学」によって理解できる。その応用・成果は、ナノテクノロジーや電子デバイスなど工業技術の発展へと結びついている。各分野によって必要となる量子力学の程度や範囲は異なるが、本講義では「量子力学」について基礎から学ぶ。 量子力学における基本的な概念と特異な演算の理解を深めることを目的とする。簡単な事象について計算できるようになるために、シュレディンガー方程式の解法などを通して、量子力学的な考え方を習得し、量子力学における記号の意味などを解説する。演算子や行列表現などの量子力学における表現方法を解説する。	
	応用物理学特論 III	現代の物理工学の対象となる基礎的な固体の磁気現象について理解する。さらに多彩な物理的振舞いを示す磁性体の性質とそれを応用した最近の磁性材料の展開について学ぶ。到達目標は以下の3点とする。(1) 全講義を通して金属、合金や化合物などの典型的な結晶構造や状態図などの固体物理の基礎について理解し論理的に説明できるようになる。(2) ミクロな固体物理とマクロな物性のつながりについて論理的に理解し説明できるようになる。(3) これらの物性の評価と応用について論理的に理解し説明できる。受講生は磁性材料に関する調査課題を通して検討・議論できる力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自専攻科目	応用化学特論 I	有機化学の分野のうち反応に関する内容を取り上げ、とくに反応における選択性について講義する。学部で学習した有機化学をベースに、反応に関する部分を取り上げより詳細に解説する。まず、平衡論と速度論を復習し、これらが反応生成物にどのように影響するのかを考える。次に、化学選択、位置選択、立体選択について紹介し、これらの選択性が基づく原理や、その応用について解説する。	
	建築構造デザイン特論	現代の建築構造設計手法について解説する。特に耐震設計についてはRC造、S造を中心に許容応力度計算、保有水平耐力計算、境界耐力計算の演習問題を用いて実務的な建築構造設計手法を理解する。また建物-地盤の動的相互作用についても学習する。①建築構造設計の知識を身につけ、設計手法を理解する。②建物の構造解析、地震応答解析の基礎を身につける。③建物-地盤の動的相互作用について理解する、の3点を講義の到達目標とする。	
	建築デザイン特論	建築デザインに関して建築空間の概念を整理しながら、具体的な建築デザインの分析を通して建築デザインの成り立ちを理解するとともに空間デザイン言語を用いた空間構成方法をワークショップを通して学ぶ。最終的には、建築空間の概念を整理し、具体的な建築デザインを分析し、成り立ちを説明できること、空間デザイン言語を用いることで具体的な建築について空間構成をワークショップを通して立体的に表現できること、作成した建築デザインを子どもたちや一般の方にプレゼンテーションを行うことができることを目標とする。	
	都市デザイン特論	都市デザインの歴史と到達点、課題について理解し都市デザインの可能性について議論を深める。都市デザインのプロセスや仕組みをフィールドワークを通して習得する。講義前半は都市デザインに関する基礎的な用語や事例について学ぶ(世界・日本の都市デザイン、高齢・人口減少・縮小社会における都市デザインなど)後半はフィールドワークを行い、都市デザインに関する課題を設定し調査・分析する。フィールドワーク後は、ディスカッション・プレゼンテーションを行う。	
	建築環境デザイン特論	環境は人々の暮らしを取り巻き、我々に大きな作用を及ぼしているすべての外界を意味している。地球温暖化をはじめとするヒートアイランド現象や都市の高温化など、多くの課題が発生している。このような問題解決に対して、建築と自然環境の関わり合いを中心にして、環境因子抽出・評価に対する高度な知識を得る。到達目標以下の4点とする。①電磁波である電波、赤外線、可視光線、紫外線の違いが理解できる。②日照、採光、照明について説明できる。③伝熱、熱対流、結露、換気と通風について説明できる。④電波障害および騒音の原理と対策を説明できる。	
	建築ヘリテイジデザイン特論	世界の各国或いは各地域には、それぞれに固有の建築文化が存在している。それらは異なる気候・風土、文化・歴史的背景などの諸条件の下、長い歴史を経て形成されたものである。本講では、日本の歴史的建造物を事例に、建築文化を未来に伝える上での諸問題について考える。現代において歴史的建造物は単に保存するのみではなく、積極的に活用することによって地域の再生・活性化の核となることが期待されている。本講では、日本の歴史的建造物の造形原理を考える上で基本となる木割法を学び、さらに気候・風土により形成された地域固有の建築的特徴を理解しつつ、様々な保存・活用の事例を検討しながら今日的な課題について考察・解決する能力を養う。	
	マーケティング・地域戦略論	地域風土に根ざした新しい価値を生み出す「地域価値創成」を実践できるようにする基盤づくりとして、マーケティングの基礎とその応用、戦略論の基礎と地域戦略の構築能力の修得を目指す。マーケティングの基礎に関してはコトラー、戦略論の基礎に関してはポーターを中心に、それにアンゾフ、ミンツバーグ、イノベーションに関してクリステンセンの研究を基盤としたオリジナルのテキストを用いて講義を行う。また、個人及びグループによるディスカッション、グループワークをふんだんに取り入れて、思考力の涵養、実践力の修得を図る。	
	地域資源開発特論 I	この授業は、マネージメントの視点で、地域資源のビジネス化を論理的に分析し、様々課題に対し、解決策を提案する力を身につけるものである。受講生同士でのグループ討議も実施し、地域資源を活用したビジネスについて理解を深める。地域資源の特徴について説明できること、地域資源の活用法について提案できることを目標とし、地域特有の農産物、伝統工芸品、観光資源、温泉等を理解し、その活用事例をとおして地域活性化について学ぶ。また、地域の歴史、風土、地形、気候と地域資源の関係について理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
高度専門科目Ⅱ	地域デザイン特論	少子高齢化社会の進展とともに新たな局面を迎えつつある地域づくりに関して、デザイナーサーベイから始まる地域デザインの方法を講義およびフィールドワークを通して習得する。前半では方法論の講義およびフィールドワークを行う。住民参加で実現した地域施設の見学、まちづくりの事例の現地踏査を行う。後半では地域プロジェクトに参加することを通して地域デザインに関する実践的な能力を養う。地域デザインに関するフィールドワークならびに地域プロジェクトへの参加を行うことで、自らが持つ専門性を活かした地域デザインの在り方に気づくことが主な狙いである。	
	コミュニティーデザイン特論	コミュニティの変遷や歴史を基礎として、時代によって様々に変化する社会問題から、人や社会を中心にとらえて再構築するコミュニティデザインの方法を考えることを目的とする。提供された技術を活かし、人や社会とつながるデザインとしてリ・デザインできる能力を養うことを目的とする。新しいブランドイメージや賑わいを生み出すワークショップなどを考案し、特定の地域のコミュニティデザインをシュミレーションすることを目的とする。	
	ダイナミックシステムデザイン特論	構造物をモデル化するために必要な、振動現象の基礎理論とモデル化方法について理解する。パワーポイントを用いた講義形式で行う。一自由度系、および多自由度系の振動現象の基礎理論を身に付け数学により記述することができ、構造物のモデル化に関する各方法の特色とその内容について述べることを目標とする。前半は一自由度系について講義を行い、講義の後半は多自由度系・構造物のモデル化（地震応答解析、復元力特性モデル等）をテーマとする。	
	建築生産デザイン特論	資源循環・ストック型社会における建築の変化や位置づけを理解する。伝統的な建築技術や既存の建造物の記述法を習得し、グループワークを通じて保存再生・維持管理を踏まえた提案についての理解を深める。先進的な事例や伝統的な事例について知識を習得し、それらを記述する方法論を習得する。また実現可能な建築提案を実践する能力を養う。本講義では伝統的な建築技術や既存の建造物の記述法を取りあげる。フィールドワークをもとに課題を発掘し、改修再生方法を各自で検討してプレゼンテーションを行う。	
	サステナブルデザイン特論	熱・光・音環境を中心に持続可能な社会を構築するための都市・建築分野における最先端の事例を紹介し、その技術・手法について理解する。これからの社会の持続可能性について建築分野、特に環境工学の立場から理解する上で重要な授業となる。持続可能性をキーワードに環境工学に関する最先端の内容を学び、①持続可能性とは何かについて自身の考えを持てるようになる。②環境工学の立場から、持続可能性を考慮した建築物の設計手法を理解する。③再生可能エネルギーに関する基本的な知識を身につける。の3点を到達目標とする。	
	セイフティデザイン特論	安全工学の基礎について理解する。また、安全工学に関する工学他分野や国際社会における動向について学習し、建築分野におけるリスク評価と安全管理手法について学ぶ。建築分野だけでなく、工学分野における安全工学の考え方や評価手法を理解する上で重要な授業である。①安全工学の基礎を理解する。②工学分野における安全工学の考え方、手法を理解する。③建築分野における各種のリスク評価と安全管理手法について理解する。の3点を到達目標とする。	
	マテリアルデザイン特論	構造物を構成する材料の力学挙動を記述する理論である弾塑性理論について理解する。微小変形から大変形にいたるまでの理論について学習するほか、数値解析手法についても学ぶ。全15回の講義を通して、弾塑性理論、構成式とフックの法則、テンソル解析の基礎、座標系、エネルギー原理、相反定理とカスチリアーノの定理、2次元問題、棒の曲げとねじり、平板の曲げ、振動、弾塑性構成則、負荷規準と関連流れ則、粒状体の理論、数値解析法といったテーマを取り上げる。	
	システムデザイン特論	現代建築の最先端技術である免震・制振構造の振動や振動制御理論を理解する上で重要な授業である。地盤や建築物の振動予測や振動制御に必要な制御理論およびシステム同定手法について理解する。また、時系列データの取り扱いや数値解析手法についても学ぶ。①振動理論および動的解析手法の基礎を理解する。②振動に関する数値解析手法を身につける。③振動制御理論およびシステム同定手法の基礎について理解する。の3点を到達目標とする。	
	地域マネジメント特論	地域産業や地域コミュニティの持続的発展を可能とするために必要なマネジメント手法を学ぶ。地域価値を創成することに加え、その価値を継続させていくことの重要性を知り、実践できる能力の習得を目指す。主としてP.F.ドラッカーの「マネジメント」に関する研究成果を基盤としたオリジナルのテキストを用いて講義を行う。また、個人及びグループによるディスカッション、グループワークをふんだんに取り入れて、思考力の涵養、実践力の修得を図る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域資源開発特論Ⅱ	地域特有の伝統工芸品、観光資源、温泉、古民家等を理解し、その活用事例をとおして地域活性化について学ぶ。 地域の歴史、風土、地形、気候と地域資源の関係について理解を深める。授業を中心に行い、事例分析・討論を交える。随時、レポートを課す。討論は受講生同士でグループで実施する。講義の前半に地域資源の概要を学んだ上で、その他地域資源の活用事例を取り上げる。その後、個別事例の詳細を検討するためグループ討議を実施する。	
	建築・デザイン・マネジメントⅠ	設定した建築・デザイン学に関する課題について、計画立案、調査、情報収集に関する能力を獲得することを目的としており、修士論文を作成するための基礎となる科目である。高度専門科目Ⅰで学習した知識や技術をもとに建築・デザイン学およびマネジメント分野での各自の専門分野における実践的なテーマを設定し、研究・設計・制作を実施するための基礎データ収集等の調査を行う。各自が設定したテーマに基づいて、調査計画の立案を行う。次に調査を実施し、適宜、調査状況を発表する。	
	建築・デザイン・マネジメントⅡ	自ら調査した結果を分析し、データに基づいた適切な目標を掲げて研究・設計・制作を行うことを目的としており、修士論文を作成するための基礎となる科目である。建築・デザイン・マネジメントⅠにおいて設定・調査したテーマについて、調査結果を発展させ、修士論文と関連付けながらテーマに関する具体的な提案を行う。テーマについては、研究・設計・制作のうちから一つのうちから選択する。設定した課題について調査結果の分析、研究・設計・制作の実施、成果の発表・議論を行う。	
高度専門科目Ⅲ	建築・デザイン・マネジメント特別演習A	専攻の教育目標（C）の観点から、建築・デザイン学における各自の専門分野の文献を指導教員の下、輪講演習して外国語の能力を養うと同時に、修士研究を遂行するにあたり、多量の情報の中から必要とする情報を収集する能力を訓練する。文献検索、外国語、情報収集に関する能力を獲得することを目的としており、修士論文を作成するための基礎となる科目である。最初に論文や英語テキストを選定し、その内容に沿って、その研究背景を国際的視点より調査・発表・討議する。 (1) 小野 浩幸) 産学連携学、技術移転論についての研究指導を行う。 (2) 佐藤 慎也) こども環境・都市住宅学についての研究指導を行う。 (3) 永井 康雄) 日本建築史、建築技術史・生産史についての研究指導を行う。 (4) 日高 貴志夫) 環境工学（環境計測）、材料科学（電磁波対策）についての研究指導を行う。 (5) 三辻 和弥) 建築基礎構造、地震工学についての研究指導を行う。 (6) 八木 文子) 絵画・版画についての研究指導を行う。 (7) 仁科 浩美) アカデミックジャパニーズ、ビジネス日本語、異文化教育についての研究指導を行う。 (8) 野田 博行) 分析化学についての研究指導を行う。 (9) 汐満 将史) 木質構造、地震工学についての研究指導を行う。 (10) 高澤 由美) 都市計画、地域政策、観光まちづくりについての研究指導を行う。 (11) 濱 定史) 木造構法、建築設計についての研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	建築・デザイン・マネジメント特別実験A	<p>建築・デザイン学専攻の教育目標(A)に基づき、研究・設計における基本的かつ高度な手段となる実験装置、計測機器、情報処理、設計支援ツール等についての知識と技術を系統的に修得し、研究課題についての実験・調査・設計を行うことで、研究を計画的に実行できる能力を養成する。この授業は、研究を計画的に博士前期課程2年間の集大成として位置づけられ、高度な実験、研究計画、研究・設計課題発表の能力を獲得するものである。</p> <p>(1 小野 浩幸) 産学連携学、技術移転論についての研究指導を行う。 (2 佐藤 慎也) こども環境・都市住宅学についての研究指導を行う。 (3 永井 康雄) 日本建築史、建築技術史・生産史についての研究指導を行う。 (4 日高 貴志夫) 環境工学（環境計測）、材料科学（電磁波対策）についての研究指導を行う。 (5 三辻 和弥) 建築基礎構造、地震工学についての研究指導を行う。 (6 八木 文子) 絵画・版画についての研究指導を行う。 (7 仁科 浩美) アカデミックジャパニーズ、ビジネス日本語、異文化教育についての研究指導を行う。 (8 野田 博行) 分析化学についての研究指導を行う。 (9 汐満 将史) 木質構造、地震工学についての研究指導を行う。 (10 高澤 由美) 都市計画、地域政策、観光まちづくりについての研究指導を行う。 (11 濱 定史) 木造構法、建築設計に研究指導についての研究指導を行う。</p>	
	学外実習（インターンシップ）	<p>自治体・企業・特定非営利活動法人等における業務の実習を通じ、 (1) 学習意欲と自らのキャリア形成に関する意識を喚起し、高い職業意識、自立心と責任感を育成すること、(2) 学生が本学で学んだ専門的知識と能力を応用し実践する能力を育成することの二つを目的とする。実際の仕事の現場での実習を通じて、職業を体験し、仕事・業界を総合的に理解する力を養う。責任ある一社会人、職業人として自分の知識や能力の位置付けを理解し、社会人になるまでに身につけるべき能力や今後の学習目標について自己理解を深める。</p>	
	理工学教育研修	<p>担当教員の指導を受けながら、学部の製図・実験・実習・演習など実務教育研修を行う。教えを通して建築・デザイン学について経験的に理解を深め、教育のための対人能力を修得する。専攻の教育目標である(1)「建築・デザイン学関連の基礎から先端分野において問題発見・解決能力を持った人材の育成」および(3)「実社会をリードするグローバルな人材の育成」に対応する。受講生は科目担当者の指導の下で、授業の準備、受講者からの質問への対応、問題点の発見と報告などを行う。</p>	
	研究開発実践演習（長期派遣型）	<p>産学連携教育による大学院教育の充実を図り「社会で実践的に活躍出来る資質と能力」の育成を目的とする。本科目は①事前教育（秘密保持に関する講義）の受講②指導教員等が共同研究等を行っている企業あるいは研究機関でのインターンシップを、4週間以上実施する（大学の研究室は不可）。③企業あるいは研究機関での研究活動及びプログラムで取り組む課題のポートフォリオの作成④成果報告会での報告⑤総合指導をすべて実施する。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。